
お婆ちゃんが丹精籠めて握ったおにぎり

Tさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お婆ちゃんが丹精籠めて握ったおにぎり

【コード】

N0089Q

【作者名】

Tさん

【あらすじ】

皆さんはお腹が減った時、何か食べたくなるのは普通の事ですよね。この物語は、主人公マストが空腹のために外出するわけですが、あるお店の存在に気づきます。それはお婆ちゃんおにぎりと言う店です。マストとお婆ちゃん、その因果を描いた物語。

(前書き)

どうも、Tさんです。この度、俺の小説を読んでもらったこと
ありがとうございます。

この物語は、俺が中学生の頃に考えた作品を書き直したものです。
過度な期待はしないでください。どうぞ、温かい目で見てやってく
だせえ……。

ある、小さなアパートの狭い部屋の片隅である男がグッタリと寝転がっていた。

「腹減ったな」

その男の名前は マスト、20歳 大学生。

そのマストこと、貧乏学生は昼飯を何にしようかと迷っていた。

「・・・いつもどおりラーメンかな」

マストはアパートの部屋を出るやいつも通っているラーメン店、ラーメン専科に向かって歩き始めた。

と、その時、歩いていたらそこらにある家の塀になにやらポスターが貼られている事に気づいた。俺はそれに興味をもつと近づいてみて、そのポスターを見てみた。

「何々？新発売、お婆ちゃんが丹精籠めて握ったお握り・・・」

ポスターに大きな文字でそう書いてあった。

「へ〜思い出の味で勝負って訳だ・・・」

行ってみよう！そう心で決めるとポスターに書いてある住所を憶え、そこに向かって歩き出した。

数分後、憶えた住所の近くに来ると、それらしい店を探し始めた。辺りをキョロキョロ見渡すと、近くには大きな看板で『お婆ちゃんお握り！』と、書いてある店を発見した。

「へ〜ここか〜見た目はみすばらしいけど、なんか味が出てるね・・・」

と・・・思ったのは一瞬だった・・・、店の真前に立つとそんな事は一切思えなかった。

客引きは女子高生、レジも女子高生、まあこれはいいとしよう、問題は厨房だ・・・、お婆ちゃんが握っていると聞いて来たのに厨房には高校生しかない！てゆうか高校生しか握ってない！！・・・いいのか・・・？これは詐欺だぜ？詐欺・・・。

でも、まあそれも悪くない・・・女子高生は嫌いじゃないし、この華に囲まれるというのは、うん・・・詐欺でも許せる範囲だ。

俺は店内に入ると綺麗に並んでいるおにぎりの前に来た。

女店員『いらっしやいませ〜』

うん、やっぱり悪くない・・・いい気分だ・・・おにぎり、買ってあげよう！、俺はおにぎりを1個持ってレジに向かった。

「あの、これください・・・いくらですか？」

「ありがとうございます！1個2980円になります！」

「……………つえ？」

何？これ……十分詐欺ってるのにポツタクリ希望かよ！！。

さすがにこんなに高いおにぎりは買う気が起きない、俺は冷静にそれを断った。

「やっぱり……いりません……」

よし、断った……。俺は振り返り店から出ようと足を進めた……が……。

入り口前で、ナイフを持ったお婆ちゃんが居た。

「ここでお婆ちゃんが来るか……」

にこやかに笑ってナイフを持っているお婆ちゃん……そこら辺のヤンキーより数倍怖く思える……。

「おにぎり……買うのかい??」

こ……これは……まさかの強引商法!?!、詐欺、ポツタクリ、強引!?!……、あまりの出来事に言葉がでない俺が居た。

きましたね、これは……なんか高校生もナイフ持ってるし……。

「おにぎり・・・買うのかい?？」

お婆ちゃんが笑顔で俺を追い詰める・・・。

「・・・・・・・・か・・・買わせていただきます・・・・・・・・」

「じゃあ・・・さっさと会計終わらせないと・・・・・・・・」

怖い・・・怖い・・・それ以外思えない・・・。震えながら俺は女子高生のいるレジに向かった。

「おにぎり・・・やっぱり買います・・・」

「はい 1個5980円になります^^」

「・・・・・・・・つえ?？」

詐欺、ボツタクリ、強引、そしてそして値上げ!?!、酷いにも・・・程があるよ・・・。

「あ・・・・・・・・値段上がってません?？」

ダン!!!!!!!!!!!!!!

レジの机にナイフが刺さった。

「ちつきも5980円と言いましたよ?？」

「え……でも……」

でもやっぱりなんと言つても怖いので財布を取り出して素直にお金を払おうとした。財布の中には、ない金をチヨクチヨク長年掛けて貯めた1万円札があったので、俺はそれを渡した。

「ありがとうございます」

「あ……えっと……あれ？おつり……は？」

ダン!!!!!!!!!!!!!!

ですよね〜そうきますよね〜大体予想してました。俺はおつりを貰わずにおにぎりを右手に店を出た。

「ありがとうございます」

女子高生もお婆ちゃんも万遍の笑みで送り出してくれた。そんなお礼など願い下げだ……。

まあとにかく、俺はやつとあんな野郎達に解放された訳で、今度は俺が奴らを落としいれる番だ。携帯を取り出し、すぐさま警察に電話した。

ブルルルル……ガチャツ……

(はい、こちら 警察署)

「あ、警察ですか・・・、今さっきですね・・・俺、詐欺に遭ってしまったんですよ・・・」

（本当ですか！どんな詐欺に遭ったんですか？）

「はい、簡単に言えば詐欺、ボッタクリ、強引、その場の値上げ、あと不当取引です」

（ずいぶん酷い目に遭いましたね・・・、きつと力任せだったでしょう・・・）

「はい、もう泣いてます・・・」

（じゃあとりあえず質問に答えてもらいますね・・・まずは、詐欺した人がどこに居るかとか分かります？まあ、普通は分からないものですが、一応聞いておきます）

「分かります！堂々としてたんで・・・住所は　　で、お婆ちゃんおにぎりって店名がついています」

プー・・・プー・・・プー・・・

「ん？電話が切れた？電波でも悪いのかな・・・」

俺はもう一度警察に電話した。

（はい、こちら　警察署へ）

「あ！すいません、さっき詐欺の事で電話したんですけども」

(プチン・・・)

「ん・・・？」

(うつせえんだよ！カスが！！てめえに逮捕状出すぞゴラァ！！分かったらもう電話してくんじゃねーぞ！！クソ野郎！！この一般庶民が！！いいか！？世の中はな〜騙される方が悪いんだよ！！)

ガチャ・・・プー・・・プー・・・プー・・・

・・・世も末だ。

正義で、民衆を守る事が仕事の警察がまさかの詐欺師援護をしたよ・・・もう、なにを信じていいのか・・・てゆーか、一番信じてもたものが・・・。

もう、なにも言いたくない。

空っぽの財布・・・。

10000円のおにぎり・・・。

ずたずたな心・・・。

末期の世・・・。

これが・・・世の中か・・・、絶望したぜ、なにもかもに
絶望だよ!!!

これが主人公マストの最後の言葉になりましたとさ。

めでたしめでたし・・・（詐欺師が・・・）

(後書き)

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0089q/>

お婆ちゃんが丹精籠めて握ったおにぎり

2011年1月11日21時10分発行